

第 13 回定時総会報告

日 時：2014 年 5 月 25 日（日）14：00～15：40

会 場：西宮市市民交流センター2F ホール

I. 開催報告

今総会における CAP センター・JAPAN 正会員数は 87(団体正会員 83、個人正会員 4)、定足数 44 のところ、表決権数は 77 (当日出席 34、書面による出席 43) でした。当日は 34 団体 45 人の方が参加されるなか、第 13 回定時総会が行われました。

議長には栗田みえ子さん (CAP 東埼玉/埼玉県)、議事録署名人には、松本史恵さん (ひとつぶのたね/大阪府)、山本千恵子さん (CAP うべ/山口県) が選任されました。

今回の運営にあたっては、複数名ご出席いただいた団体正会員から足立淳子さん (ふくちやま CAP/京都府) に、表決カウントの補助をお願いしました。また、表決方法を今回の総会から表決用紙を使用しない挙手に変更しました。(2 ページ目下の写真をご覧ください) 書面表決の意思決定を活かし、意見表明の責任を負っていただく皆さまのご協力によって総会運営を行うことができました。ありがとうございました。

当日は、すべての議案が承認され、2014 年度の事業が本格的にスタートいたしました。

お手元にある議案書の (案) の文字をお消してください。

以下に、総会当日の進行概要をご報告します。

(1) 理事長挨拶 (挨拶概要)

「みなさんこんにちは。今日は第 13 回定時総会ということで、お集まりいただきましてありがとうございます。昨日の研修から参加していただいている方も、今日の夕方まで非常に長丁場ですが、どうぞよろしく願いいたします。

最近、本当に子どもたちを取り巻くさまざまな出来事が起こっています。特に昨年は、いじめ防止対策推進法、子どもの貧困対策法など法律がいくつか出来ました。私も児童養護施設あるいは保育園に関わっているんですけど、社会的養護という社会の世界の中では虐待を受けた子どもは今施設にいる児童の 6 割ぐらいになっています。三光塾の施設の場合は 7 割がそうなんですけども、社会的養護という中で考えるよりも、もう一つの切り口として、子どもの貧困という切り口で考えていけないんじゃないかなと最近思ってきています。今年『子どもの貧困—日本の不公平を考える (岩波新書)』の著者である国立社会保障・人口問題研究所の阿部彩さんとインタビュー対談する機会がありました。日本は豊かな国と言われているんですけども、子どもの相対的貧困率、平均収入以下の生活をしている子どもたちは OECD 加盟の 35 か国中、高い方から 9 番目 14.9%がそういう貧困の中にいるということです。全世界 35 か国の貧困家庭に暮らす子どもの人口は 3,400 万人、うち日本の子どもたち



は 305 万人なので、世界の貧困の中にいる子どもの約 10%が日本の子どもたちだということです。そこから子どもたちの将来に非常に大きな影響がある深刻なケースとしては虐待であったり、不登校であったり、子どもたちが抱えている様々な現象がそういう部分から見えてくる気がしますし、貧困の連鎖でそういう子どもたちは親になった時にまた同じようなその状態から抜け出せないというふうなことも起こってきています。現実には非常に深刻なことが増えてきているので、私たちも考え方を変えていかなきゃいけないのではと最近思いつつあります。

その中で本当に子どもたちの安心・自信・自由ということを目指して活動する CAP の働きというのはこれからますます必要になってくると思いますし、CAP センター・JAPAN も皆さん方と一緒に昨年度からネクストステージ委員会でさまざまなことを考えてきました。子どもたちの安心指標を作っていこうという目標を掲げて子どもたちにとって何がどんな環境が本当に安全で安心で自由な環境なのかということ、具体的に客観的に見ていけるようなものを考えていきたい。そして、そういう環境が整えられた場所を「そこは安全な所ですよ」という認証、そういうところまで持っていきたいというふうに思っています。もう一つ大切なのはその事を考えていく中で CAP のグループだけではなく、さまざまな子どもたちの人権を保障する人権を擁護する活動にしている団体との協働ですね。さまざまな情報の提供と共有を今後進めて行くことが私たちの CAP グループあるいは CCJ のとても大切なことだと考えています。

私が理事になったときに目標にあげた、全国のいろいろなグループのできるだけたくさんの方とお会いしたいということ、昨年度は 2 か所しかいけませんでした。沖縄県と山口県に行かせていただき、沖縄では九州のグループとの集まりのなかで楽しい時間を過ごさせていただきましたし、山口ではさまざまな分野の方々との勉強会も参加させていただきました。今後そういうことももっと一所懸命関わりながら皆さんと一緒にこの CAP の活動を進めて行ければなというふうに考えています。私も先ほど指折り数えておりましたら、6 年目になります。皆さんに支えられながら、6 年間、6 年目に入りますけれども今後ともよろしくお願いいたします。」

(2) 審議結果

【第 1 号議案 2013 年度特定非営利活動に係る事業報告および会計報告について】

議案書に沿って、事業報告および会計報告は、議案書に沿って長谷事務局長が説明しました。その後、当日欠席の監事の代理として家本副理事長より、「監査の結果、当法人の業務および財産に関する不正の行為または定款に違反する重大な事実はないものと認める」と報告がありました。

採決の結果、全会一致で、第 1 号議案は承認されました。



【第 2 号議案 2014 年度特定非営利活動に係る事業計画案および活動予算案について】

事業計画および活動予算は、議案書に沿って長谷事務局長が説明し、その後、質疑応答が行われました。

採決の結果、全会一致で、第 2 号議案は承認されました。

【第 3 号議案 理事の改選について】

側垣理事長より、以下の理事・監事を候補とする旨、説明が行われました。



理事の任期は 2014 年 6 月 1 日～2016 年 5 月 31 日

理事 家本 めぐみ (再任)	理事 江口 聡 (再任)
理事 島村 優子 (再任)	理事 鷺見 雅子 (新任)
理事 側垣 一也 (再任)	理事 西澤 哲 (再任)
理事 長谷 有美子 (新任)	理事 古野 陽一 (再任)
監事 能島 裕介 (再任)	監事 森本 志磨子 (再任)

採決の結果、全会一致で、第 3 号議案は承認されました。

【その他】

議長解任の後、側垣理事長、退任の大野理事、横山理事、新任の鷺見理事、長谷理事からそれぞれ挨拶があり、島村理事の挨拶をもって閉会しました。



II. 当日の質疑応答の概要

【第 2 号議案 2014 年度特定非営利活動に係る事業計画案および活動予算案について】

- 質問 1 CAP センター・JAPAN は中学生プログラムについて、トレーナーが今現在いない為、養成などできない状態です。その辺りの進み具合、状況がどうなっているのかをご説明をお願いします。
- 回答 1 事業報告のなかの J-CAPTA との協働ということでお話ししましたように、やり取りはしております。養成講座ができる体制づくり、体制を作るだけでなく地域で今までやっているプログラムの対応も必要ですので早くトレーナーを作りたいと思っていて、ずっと J-CAPTA に働きかけています。やり取りの結果、2015 年度 4 月というお返事をいただいたので、その予定で実施したいと思っています。
- 質問 2 総会の前研修など、各グループにとって有効な取組みを実践してこの団体そのものの健康な事業に取り組んでいるということが伝わってきました。そこを支えている事務局の給与体制や保障は十分できているのか説明をお願いします。各グループのモデルになるような NPO 団体でいてほしいということも含めて質問させていただきます。
- 回答 2 2 人は給与制で、後のスタッフは時給で働いております。(長谷)
 厳しい人件費のなかでボランティア的に活動してもらっています。仕事量はすごいです。全国飛び回っていますし、そのなかでこれだけしか支払っていないのは非常に心苦しいところです。なので、会員を増やして頂けるか、会費等の値上げは何も考えていません。いろんな意味で苦勞をおかけしていますが、NPO としてこれが努力の限界のギリギリかなと思っています。(側垣理事長)

III. ふりかえり

当日出席正会員に、アンケートをお願いしたところ、27 の団体正会員にご提出いただきました。ご

協力をありがとうございました。いただいたご意見は、今後の総会運営に反映してまいります。なお、会員からのアンケート内容は、ホームページ「正会員のページ」に UP しておりますので、併せてお読みください。以下に、事務局のふりかえりをご報告します。

<事前>

議案書等の作成・発送： 例年どおりにGWの前である4月28日に発送することができたが、ゆうメールで届くのが遅れたところもあった。

<総会当日>

運営： 今回は、パワーポイントを使い、参加者の皆さんにイメージをもって話を聞いていただくことを心がけた。次年度以降もプレゼンテーションの方法にこだわっていききたい。

表決： ボランティアの方にお手伝いいただき、スムーズに進めることができた。

<その他>

- ・新しいツールの頒布を行ったが、一部品切れとなったため、今後余裕をもった準備をしていきたい。
- ・ほぼ例年通りの表決数であった。関心を寄せていただき正会員の皆さんと協働を進めていきたい。

IV. RTC 登録グループの集い

総会当日午前中9:30~12:30、RTC登録グループの皆さん37人の方が参加されました。各地のCAPグループの活動状況の共有し2013年度実践報告の分析の連絡報告、躍進的にワーク数の増えているグループであるNPO法人あいちCAPプラスの方からグループの取り組みを伺いました。後半には、事務局より、チャイルドビジョン、CAPプログラムリーフレット等の新たなツールを使った戦略について説明を行いました。



紹介された新たなツール
こちらは事務局へ注文いただき購入することができます。



グループワークや全体への発表など、活動状況の共有を行いました。

以上